

一 うれとろ添くく申す 二十三歳

下女

一 尾つうをいす 十九歳

因

一 子よくは 二十二歳

地震く事

文化十一年 二條公卿 藤原公卿 藤原公卿 藤原公卿 藤原公卿  
水野遠はる 廻回 河内 河内 河内 河内 河内 河内 河内 河内 河内  
江戸此三藩中より大坂と取り近水津 水津 水津 水津 水津 水津 水津 水津

天野忠有の 新見忠有の 一ツ小成の 藤原同六日 藤原山  
中畑宿多 天忠有の 惣五郎 六郎 七郎 八郎 九郎 十郎 十一郎 十二郎  
右の 藤原中より 後陽の 九時以 二子山より 腰掛 水津 藤原  
の 通ふく 御大風の ことく 鳴動 人をも 踏むく 子たを 治さ  
う 治さく 例の 事ゆく 駕籠 事と せうく 一ツ事 加と けい  
や 官大比 震くく 二子山の 頂より 口煙の ことく 立りく  
大盤石 いく 百とるく 一とるく 一とるく 一とるく 一とるく 一とるく 一とるく  
群も 又いぬも 出腰 近き けい 一とるく 一とるく 一とるく 一とるく 一とるく 一とるく  
さくく 石小 けい 一とるく 一とるく 一とるく 一とるく 一とるく 一とるく 一とるく 一とるく  
一 立其 會百千の 雷く 一とるく 一とるく 一とるく 一とるく 一とるく 一とるく 一とるく 一とるく



うらみと氣も魂も身もせりびきんか力ともし  
死とつくと草履しくるもかきも〜  
盤石堂申とむ〜一万俵の谷代還け花討落付  
有以え地もくつ〜是とや〜ふるまふもの者〜  
え〜木樵野のこの早く木と梢小〜是を  
む〜右の二子の中木小むびいたき万俵の谷  
道流大盤石〜魚〜急峻の坂道難堪  
目小〜木もかく〜は〜もた〜  
む〜けつ〜下の方〜  
い〜心先再中の心持〜

初〜ガム初の程小〜暗〜見合〜山〜  
まり〜物九席の駕籠〜置き十四五間前小  
尺の大石〜道分小〜盤石〜急渡  
の難而十余町やり〜平〜  
中の石〜や〜杖束の坊小〜再〜平小茶  
店〜  
落入地由茶店〜の流〜  
〜上下〜  
〜之鶴乃驛〜又〜比良津〜  
〜其〜守の地〜中〜



者のまゝぬるゝ北由駿河沼尻府中阿迄い招列のゝ  
 小もかく外面のゝの知らるゝの程の事一に都のまづ  
 活きよりの地衣のゝ一珍事申へ筆と貴け

何れ又古のうゝに之樂亭戲述

易の所謂天道の盈虧のりより一平なふはるゝの府初年  
 一より父母事ゝの孝心ゆゝをと悟み業法起り小孫  
 と安く富一ひひゝ一お始え小賢ゝひひゝ秋のまに  
 幽居小水と雲一月一射ゝの詩と賦一雪の意小を  
 ひとむゝの花ゝ朝小を微笑拈華の道の觀一りゝ

井華と好く申へ極一頓息夢小浪と福一香の煙り  
 に世の誓と拂ひ竹風小利名と清久志も折る市中に  
 出く遊戯のる小業とくゝ是は倫利埃の幸にけり  
 水の真かと思ひゝの源小ゝのたの意やけ皆不貴人  
 け藤一を功未名逐く身と雲一お君の人のを  
 亦若幽亭小居一ゝく小を志とくゝい喜するに  
 一小さい余余小きゝゝのけ知り庭の瓢小身とねゝ一白蓮  
 小心といゝゝ一子孫小質素潔白と等一の樂事之  
 又わりの朝小道ゝのひ夕小浮世小交らゝんおかほ流小  
 糸と煮るゝ物襟と洗ふの糸ゝゝも亦ゝの飽ゝゝ